

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	音楽 I Tutti+ (教育出版)						
副教材等	自主教材プリント)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の4つの分野を年間通して学習します。
- ・音楽がどのように形づくられ、そしてそれをどう感じて表すのかについて歴史的背景とともに学習を進めていきます。周りの人とともに音楽を分かち合い、音楽を通して様々なことを学びます。
- ・様々な音楽にふれ、楽曲そのものだけでなく、その背景となる文化や歴史についても理解を深め、音楽の多様性について理解しつつ広い音楽的視野を身につけていきます。
- ・実技テストは授業中に発表形式で行います。お互いに聴き合うことで他人の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げて、今後の音楽表現に生かしていきましょう。

2 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	歌唱・器楽などの音楽表現において、自己のイメージを持ち、創意工夫できるように必要な知識を取り入れ、技能を身に付けている。 また、鑑賞を通して音楽と社会との関わりや歴史的背景などを学び理解している。	曲想を歌詞の内容や背景と関わらせてイメージし、曲種に応じた発声の特徴を生かすなど、学習した知識・技能を生かし、表現したい自己のイメージを膨らませながら、楽曲にふさわしい音楽表現を創意工夫しようとしている。また、鑑賞から得た知識・技能を生かし、思考・判断して創造的な表現をしようとしている。	主体的・協働的に幅広い活動に取り組み、その中で他者との調和を意識し、創意工夫過程で様々な表現を試している。また、楽曲の曲想や背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもち、演奏したり鑑賞したりする学習に取り組んでいる。

※令和4年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	表 現	オリエンテーション～イメージをもって歌おう 「校歌」 「君に届くまで」 「優しいあの子」 「少年時代」 日本歌曲を歌おう 「この道」 「浜辺の歌」	a:【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、表現している。 b:親しみやすいポップスや効果の旋律・リズムを知覚し特質や雰囲気を感じながら自己のイメージを持って、表現している。 c:音楽を幅広く様々な視点から捉えようとすることに関心を持ち、主体的・協働的に活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振り返りシート
		イタリア語に挑戦! 「Caro mio ben」 英語のライムを感じて 「Smile」 「Yesterday」	a:【知】言葉の特性と曲種に応じた発生との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。【技】曲にふさわしい発声・発音、身体の使い方などの技能を身に付け、表現している。 b:リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージ、思いや意図を持っている。 c:言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振り返りシート
		「Wind from the south」	a:様々な表現形態による特徴について理解している b:知覚・感受したこととの関わりを思い・意図をもって表現している。 c:身体 of 様々な部位を使って、表したイメージをもって、主体	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

			的・協働的に取り組もうとしている。			
	鑑賞	西洋音楽の源流を耳でたどろう グレゴリオ聖歌「パンジェ・リングア」 西洋音楽史	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 b: 知覚・感受したこととともに音楽の意味や価値、音楽の美しさを味わって聴いている。 c: 文化的・歴史的背景の学習で迎えることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート	観察
2学期	表現	アンサンブルを楽しもう 「Happy birthday to you」 「Oh happy day」 季節の雰囲気を感じよう 「赤とんぼ」「紅葉」	a: 他者との調和を意識して歌う、表現形態の特徴を生かす技能を身に付けている。 b: 和音・和声を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、自己のイメージを持ち、意図して表現している。 c: 和音・和声を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	実技テスト レポート	観察 振り返りシート
	鑑賞	変奏曲の魅力を探ろう 「24の奇想曲(カプリス)から第24番」 「パガニーニの主題による狂詩曲」 古の音楽に思いをはせよう 「Review 越天楽」 長唄「京鹿子娘道成寺」 日本音楽史	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 b: 音楽の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら音楽の良さや美しさを自ら味わって聞いている。 c: 主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているかに関心を持ち、主体的・共働的に学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート	観察

※令和4年度以降入学生用

3 学期	表現・鑑賞	コンサートを開こう ～音楽Ⅰのまとめとして	<p>a: 音楽Ⅰの一年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。</p> <p>b: 音楽Ⅰで学んだ教材の音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージを持って歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて、思いや意図を持っている。</p> <p>c: 1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、学習を経て、自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート (企画書)	実技テスト レポート	振り返りシート
---------	-------	--------------------------	---	-----------------	-------------------	---------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	高校生の美術1 (日本文教出版)						
副教材等	ワークシートプリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・創造的な造形力を育む態度を身につけましょう。
- ・自分の個性や美的感性を磨くと同時に、他者の表現に共感する態度を磨きましょう。
- ・用具や素材の取り扱いを正しく理解し、安全に気をつけて授業を受けましょう。
- ・課題作品は最後までやり遂げ、完成させて提出しましょう。
- ・授業のポイントや自身で気付いたことなどをメモしていきましょう。

2 学習の到達目標

- ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きについて考え、主題を生成し創造的に発想したり構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。
- ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	画材、用具の扱いについて正しく理解し、表現活動に際し理にかなった取り扱いができる。	テーマや目的に応じて物事を多面的に考察し、創造的に造形する力、適切な手法技法を選択することができる。	色彩や構図法など学んだ表現技法や理論を活用しようとする態度、他者の作品に対して論拠のある共感や評価をしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	オリエンテーション	美術とは何か	a: b: c:			
	【デザイン】色彩の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・色の三属性 ・色の調子 ・色対比 ・色の機能 ・混色演習 ・色彩構成 	<p>a: 色彩に関する用語やその用法を理解し活用できる。テーマの意図やねらいを考えて混色する技術を身に付け表現することに関心をもつ。基本的な色彩の効果を理解し、それを主体的に構想に生かすことができる。 絵の具の特性や技法に興味を持ち、表現に創意工夫ができる。</p> <p>b: 語句からイメージを広げ、そこから連想される事物の情景や、そのイメージに相応しい象徴的な配色が発想できている。</p> <p>c: 絵の具の混色効果を理解し、目的や意図に応じ、特性や効果を生かして表現している。</p>	ワークシート 作品	ワークシート 作品	ワークシート 作品
2学期	夏季休暇鑑賞課題	高校展の作品鑑賞	<p>a: 作品のよさや、作者の心情や意図と多様な表現に関心を持ち、作品について理解しようとしている。</p> <p>b: 同上</p> <p>c: 作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、その感想を的確に表現できる。</p>	鑑賞 レポート	鑑賞 レポート	鑑賞 レポート

※令和4年度以降入学生用

	<p>【絵画】 様々な表現技法</p>	<p>さまざまな表現技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な表現技法を習得し、技法を使って制作した「素材」を再構成することで新たな作品を創造する ・課題制作 ・作品鑑賞 	<p>a: さまざまな表現技法の造形的要素で感じ取ったことや考えたことに関心が持てる。技法に関心をもち表現できる。技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現している。</p> <p>b: 感じたことや考えたことから主題を生成し、主題を効果的に表現するために構図などの画面上のバランスを工夫できる。</p> <p>c: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わっている。</p>	<p>ワークシート 課題作品</p>	<p>ワークシート 課題作品</p>	<p>鑑賞 レポート</p>
<p>3学期</p>	<p>【デザイン】 イラストレーションの魅力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキュラーイラストレーション ・作品鑑賞 	<p>a: 作品を造形的に表現することに関心が持てる。主体的に主題を生成し、形や色彩などの造形的要素の働きを考え創意工夫して構想が練れる。特性を理解し、テーマに応じて特性や効果を生かして表現している。</p> <p>b: テーマに沿って造形的なおもしろさと調和を考え主題を生成している。</p> <p>c: 他者の作品の表現の意図や工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。</p>	<p>ワークシート 課題作品</p>	<p>ワークシート 課題作品</p>	<p>鑑賞 レポート</p>

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	書 I (教育図書 出版)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

表現及び鑑賞の活動において、単に文字を美しく書くだけでなく、感受性を持って書表現を鑑賞することにより、表現の意図を理解し書写技術の向上を目指す。
書表現が身近な存在であることを理解し、文字文化の成り立ちや歴史的背景とともに、書表現の理解を深める観点から、文字の変遷、伝統・文化に関する学習活動を実践する。
授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書の関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	書の表現や形式、多様性などについて幅広く理解している。 書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美の味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元 (学習項目)	学習内容	単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学期	ガイダンス	「芸術としての書道」 今後の授業内容として、書写的に文字を正しく美しく書くための技能習得だけでなく、芸術的に感受性を持って鑑賞・書表現をし、書が身近なものであることや、文字の変遷、伝統・文化に関する学習活動も実践することを確認する。	a: さまざまな書体の成り立ちや変遷を知り、また、それぞれの趣の違いを感じ取る。 c: 国語科書写と芸術科書道について理解し、今後の授業に向け期待感を持って意欲的な姿勢を持っている。	ワークシート		観察
	「漢字仮名交じり」の書	「線の表現」 用具・用材などの特徴を理解し、筆の機能を体験的に学習する。	a: 筆の特徴を理解し、制作時の表現意図を作品に反映させ表現している。	作品 振り返りシート	作品 振り返りシート	相互批評 ワークシート 観察
		「文字で表現しよう」 題材のイメージや意味を考え、それに相応しい表現を創意工夫して書作し、その難しさや面白さを体感する。	b: 題材のイメージに相応しい表現方法を工夫している。			
		「言葉・詩句を書こう」 単元での学習経験を踏まえ、表現を工夫することで、他作品の制作意図を考え鑑賞する能力を身につける。	c: 作品の相互批評を行い、自他の作品の意図を考え、個々にしか書けない文字の尊さを感じ味わっている。			
	篆刻	「篆刻」 落款印を制作し、作品に押印できるようにする。	c: 押し作品として完成させ、そのよさを味わっている。			作品 ワークシート
	硬筆での楷書	自分の氏名を楷書で書く 「楷書の学習」での文字構築の原理を自分の氏名に当てはめ、丁寧に美しく書くことと、普段から丁寧に書く習慣を身につける。	a: 文字構築の原理を自分の氏名に当てはめ、丁寧に美しく書く技能を身に付け表している。 c: 日常もっとも書く機会が多い自分の氏名を美しく書くために積極的に取り組んでいる。	作品 ワークシート		観察
楷書の学習①	「書写からの展開」 書写からの展開を考え、楷書の基本点画の技能面での習得について確認する。また、楷書の文字の構築性などを考えながら書く習慣を身につける。	a: 筆の特徴を理解し、基本点画の習得に努め、構築性を身に付け書作している。 c: 積極的に取り組み、技術の習得に努めている。	作品 ワークシート		観察 ワークシート	

※令和4年度以降入学生用

2 学期	楷書の学習②	<p>「古典臨書」 唐の四大家の作品について、形臨中心に行い、書風の違いによる表現技術の習得と鑑賞する習慣を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九成宮醴泉銘 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・建中告身帖など 	<p>a:古典の違いを技術的に書き分ける技能を習得している。 d:各古典の表現を工夫している。 c:楷書の成り立ちや各古典の歴史的背景と各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に味わっている。</p>	作品 小テスト	作品	ワークシート 振り返りシート
	行書の学習	<p>古典臨書を中心に楷書と行書の違いを理解し、その技法を学習する</p>	<p>a:行書の特徴を理解し、基本点画の習得に努め、古典の技法を身に付けている。 b:各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に味わっている。</p>	作品	作品	観察 振り返りシート
2 学期	仮名の学習	<p>「いろは歌」から古典の連綿まで展開して行くことで、仮名の用筆法を習得する。平仮名・片仮名の成立ちを学習する。</p>	<p>a:仮名の用筆法を理解し、基本点画の習得に努め、古典の技法を身に付け表している。 b:日本古来の仮名の古典の特徴・美しさを理解し、意図を持って創造的に表現している。 c:日本語表記も含めた、平仮名の成立ちについて関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。</p>	作品 小テスト	作品	観察 ワークシート 振り返りシート
3 学期	文字の成り立ち ・篆書、隷書の学習	<p>書体の変遷を学習し、甲骨文字から、現在使用している「ひらがな・カタカナ」が、どのような変遷を経て成立したものかを確認する。 篆書・隷書の筆使いを学習する。 古人の古典臨書作品を鑑賞し、臨書時の表現の意図を考察し鑑賞能力を高める。</p>	<p>a:文字の変遷について関心を持ち、積極的に取り組み、技術の習得に努めている。 d:各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に表現できている。</p>	作品 小テスト	作品	観察 ワークシート 振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2002
------	------

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	音楽Ⅱ Tutti+ (教育出版)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の4つの分野を音楽Ⅰの学習経験を基盤として、学習していきます。 ・音楽を形づくっている要素の働きが楽曲の特徴にどのような役割を果たしているかを理解していきます。 ・音楽文化についての理解を深めるために、音楽が文学や絵画などの諸芸術や他の文化と互いにどのように影響しあって発展してきたかを様々な教材を通じて考える。 ・実技試験は授業中に発表形式で行います。お互いに聴き合うことで他人の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げて、今後の音楽表現に生かしていきましょう。

2 学習の到達目標

<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 音楽Ⅰの学習成果を踏まえ、文化的・歴史的背景や音楽の多様性について理解を深め、より広い視野で音楽を捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 個性豊かな音楽表現を創意工夫できるようにするために、必要となる技能を身に付け高めることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的な音楽活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度や音楽の知的財産権を尊重する態度を養う。</p>
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	歌唱・器楽などの音楽表現において、学んだことを取り入れ、自己のイメージを持ち、創意工夫できるようにするために必要な知識・技能を身に付けている。 また、鑑賞を通して音楽と社会との関わりや歴史的背景などを学び理解し、文章表現できている。	曲想を歌詞の内容や背景と関わらせてイメージし、曲種に応じた発声の特徴を生かすなど、学習した知識・技能を生かし、表現したい自己のイメージを膨らませながら、楽曲にふさわしい音楽表現を創意工夫しようとしている。また、鑑賞から得た知識・技能を生かし、思考・判断して創造的な表現しようとしている。	主体的・協働的に幅広い活動に取り組み、その中で他者との調和を意識し、創意工夫過程で様々な表現を試している。また、楽曲の曲想や背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心を持ち、演奏したり鑑賞したりする学習に意欲的に取り組んでいる。

※令和4年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	表 現	オリエンテーション～クラ スの歌声を響かせよう 「Smile」 「Pretender」 「見上げてごらん夜の星 を」	a:【知】様々な表現形態による歌 唱表現の特徴について理解して いる。【技】姿勢や呼吸などの身 体の使い方の技能、他者との調和 を意識して歌う技能を身に付け、 表現している。 b:親しみやすいポップスや効果 の旋律・リズムを知覚し特質や雰 囲気を感じながら自己のイメ ージを持って、表現している。 c:歌詞の内容や作詞者・作曲者の メッセージを考えながら二部合 唱で歌うことに関心を持ち、主体 的・協働的に活動に取り組もうと している。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振り返りシート
		イタリアの歌の世界 「Core 'ngrato」	a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞、 文化的・歴史的背景との関わり及 び言葉の特性と曲種に応じた発 声との関わり、それらによって生 みだされる表現上の効果につい て理解している。【技】創意工夫 を生かした歌唱表現するために 発声・発音の技術を身に付け表現 できている。 b:音色、リズム、旋律、強弱、構 成を知覚し、それらの働きを感受 しながら、個性豊かに表現を創意 工夫できている。 c:言葉の特性や曲にふさわしい 発声で表情豊かに歌うことに関 心を持ち、主体的・協働的に取り 組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振り返りシート
		英語でポップスを歌おう 「Yesterday once more」 「Let it be」	a: 曲想と音楽の構造や歌詞、文 化的・歴史的背景との関わり及び 言葉の特性と曲種に応じた発声 との関わり、それらによって生み だされる表現上の効果について	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

			<p>理解している。</p> <p>b: 音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、個性豊かに表現を創意工夫できている。</p> <p>c: 言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>			
	鑑賞	<p>西洋音楽の源流を耳でたどろう</p> <p>グレゴリオ聖歌「パンジェ・リングア」</p> <p>西洋音楽史</p>	<p>a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。</p> <p>b: 知覚・感受したこととともに音楽の意味や価値、音楽の美しさを味わって聴いている。</p> <p>c: 文化的・歴史的背景の学習で迫ることに関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート	観察
2学期	表現	<p>アンサンブルを楽しもう</p> <p>「Happy birthday to you」</p> <p>「Oh happy day」</p> <p>季節の雰囲気を感じよう</p> <p>「赤とんぼ」「紅葉」</p>	<p>a: 他者との調和を意識して歌う、表現形態の特徴を生かす技能を身に付けている。</p> <p>b: 和音・和声を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、自己のイメージを持ち、意図して表現している。</p> <p>c: 和音・和声を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	実技テスト レポート	観察 振返りシート

※令和4年度以降入学生用

	鑑賞	<p>変奏曲の魅力を探ろう 「24の奇想曲(カプリス)から第24番」 「パガニーニの主題による狂詩曲」</p> <p>古の音楽に思いをはせよう 「Review 越天楽」 長唄「京鹿子娘道成寺」 日本音楽史</p>	<p>a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>b: 音楽の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら音楽の良さや美しさを自ら味わって聞いている。</p> <p>c: 主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているかに関心を持ち、主体的・共働的に学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート	観察
3学期	表現・鑑賞	<p>コンサートを開こう ～音楽Ⅰのまとめとして</p>	<p>a: 音楽Ⅰの一年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。</p> <p>b: 音楽Ⅰで学んだ教材の音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージを持って歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて、思いや意図を持っている。</p> <p>c: 1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、学習を経て、自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート (企画書)	実技テスト レポート	振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	高校生の美術2（日本文教出版）						
副教材等	ワークシートプリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

作品制作や鑑賞をとおして、自然、自己、社会などを深く見つめて主題を生み出す力を身につけましょう。
心豊かな表現の構想、表現形式や材料・技法の活用、形や色彩の効果を生かして個性豊かな表現を追究します。
主題や目的、意図に応じて、表現方法を工夫して創造的に表現することを学びましょう。
芸術作品の美しさや美術文化について理解を深めるとともに、自己や他者のよさを認め合い、感性を高めましょう。
作品の相互評価をするなど、表現活動とともに鑑賞する力を身につけましょう。

2 学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・対象や、事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・表現技法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想して構想を練ったり、自己の価値観を高め美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表現している。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	a b 主な評価の観点	評価方法		
				(a)	(b)	8c)
1学期	オリエンテーション	表現とは何か 美術Ⅰを振り返り、美術Ⅱの学習イメージを持ち、美術の学びの深まりと意味について考える	a: b: c:			
	【絵画】 「油彩画の制作」	油彩画の制作「静物画」 ・卓上モチーフデッサン ・油彩制作 ・作品鑑賞	a:観察を通して考えたこと感じたことに興味を持てる。描写を通して形体の構造や描写方法に興味を持ち表現できる。技法や画材の使い方を理解し目的や意図に応じて特性や効果を生かして表現している。 b: 観察を通して考えたことや感じたことに興味を持てる。描写を通して形体の構造や描写方法に興味を持ち表現できる。 c: 作品のよさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り感想を的確に表現できる。	ワークシート 作品	ワークシート 作品	レポート
	夏季休暇課題	高校展鑑賞レポート	a: 他者の表現に興味を持ち、作者の意図や表現に関心を持ち作品理解に努めている。 b: 同上 c: 作品のよさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り感想を的確に表現できる。	レポート		レポート

※令和3年度以前入学生用

2 学期	【デザイン】 「神の特性を生かして伝える」	アコーディオンブック制作 ・アイデア構想 ・ページの構成 ・制作 ・作品鑑賞	a: 様々なスタイルの絵本に関心を持ち、絵本を通して伝達のためのデザインに主体的に取り組める。形や色彩などの造形要素の効果的な働きについて考え、テーマに適った伝達表現の構想が練れる。 b: 色彩効果や、絵の具の描画技法を理解し、主題をより効果的な構成方法でデザイン表現できる。 c: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わえる。	学習状況の 観察 アイデア スケッチ	完成作品	レポート
3 学期	【絵画】 版で表す「ペーパードライポイント」	ペーパードライポイント ・アイデア構想 ・下絵 ・作品制作 ・鑑賞	a: 様々な生き物を表現することに興味関心を持ち、生き物のデザインに主体的に取り組める。 b: 造形要素について考え、独創的な表現の構想を練れる。主題をより効果的畫面構成で表現できる。 c: 美術作品などの表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わえる。	学習状況の 観察 アイデア スケッチ	ワークシート 作品	レポート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	書Ⅱ (教育図書 出版)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

書道の幅広い活動を通して、書に関心を持ち愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、探究心を育成し表現と鑑賞の能力を伸ばす。さまざまな書体の古典を学習することで、文字の発展の過程や時代背景など理解を促す。

また、相互批評などのグループ学習をすることでコミュニケーション能力の向上をめざし、書道芸術作品と自他を尊重する心を育む。この点については各単元において実施していきたい。授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育成するとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	書の表現や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書の伝統に基づき効果的に表現するための技法を身に着けるようにする。	書のおよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の味の味わい深く捉えたりすることができるようになる。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通じて心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元 (学習項目)	学習内容	単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学期	「草書」「行書」 ・十七帖 ・書譜 ・祭姪文稿 など	◆書体の変遷における行書・草書体の特徴の理解し、発生の歴史的背景を理解する。 ◆さまざまな古典臨書を通じ、変化に富む用筆法を観察し行草体の躍動感やリズム感を表現していくことで、技術の向上と鑑賞能力の向上を図る。	d: 各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に鑑賞しそのよさを表現しているか。 c: 積極的に取り組み、行書で自分の名前を書くに当たっての技能習得に、興味・関心を持っている。		WS 作品	観察 WS
	「行書」細字	◆細字での学習を行い、自分の名前を行書で書ける事を目標に取り組む。	a: 古典の技法を細字として表現する技法を身に付けている。 b: 行書の特徴を理解し、基本点画の習得を生かして表現を工夫している。	WS 作品	作品	
	「仮名」	◆用筆・運筆を理解し古典に基づく表現を工夫する。 ◆漢字の「行書」「草書」との歴史的関連性理解する	a: 仮名の特徴を理解し、基本点画や連綿の運筆など筆使いを身に付け、表している。 b: 書作時の表現の工夫を活かせるよう、古典の技法・構成法を鑑賞する。	WS 作品	WS 作品	
2 学期	「漢字仮名交じりの書」 作品制作	◆題材の詩句の内容・用具用材の特徴を理解し、古典学習で習得した技能、鑑賞で得た感動をもとに、創造的工夫を持って書作する。	b: 語句の意味を考え、制作時の表現意図を作品に反映するように工夫する。 c: 作品の相互批評を行い、自他の作品の意図を考え、個々にしか書けない文字の尊さを感じている。		WS 作品	WS 観察
	「篆書」の 基本学習 古典臨書 ・泰山刻石	◆篆書の変遷(時代を遡る)を学習していくことで漢字の成立ちや構造を学習する。(象形・指示・会意・形声など) ◆篆書の用筆法を理解し、習得する。(逆筆・藏鋒)	a: 用筆法を理解し、基本点画の習得に努め、構築性を考え身に付け表している。 c: 歴史的背景を理解し漢字への関心を深め、積極的に取り組んでいる。	WS 作品		WS 観察
	さまざまな 「篆書」 石鼓文	◆明・清時代の古典臨書などを参考に、用筆法・表現の工夫などを鑑賞する。	a: 各古典の時代背景や成立を理解している。 b: 各古典の特徴を理解し、当時の美意識と感性を持って創造的	WS 作品	WS 作品	

※令和4年度以降入学生用

	<p>金文 甲骨文など</p>	<p>◆各時代の文化と関連付けて、篆書の変遷を考える。</p>	<p>に表現を構想している。</p>			
2 学期	<p>「篆刻」 作品制作 ・選文 ・印稿 ・布字 ・運刀 ・押印 など</p>	<p>◆印の歴史を学習し、実際に漢時代の官職印を参考にした自用印を制作する。</p>	<p>a: 用具の使用方法を十分に理解し、作品が制作されている。 b: 漢時代の印の特徴を理解し、構築性のある印面制作について工夫している。 c: 物品・器物への取扱に注意し、安全に作業をし、意欲的に取り組もうとしている。</p>	WS 作品	WS 作品	観察
3 学期	<p>「隸書」 ・木簡 ・曹全碑 ・乙英碑 ・石門頌 など</p>	<p>◆書体変遷の中の、隸書の成り立ちを考察し、隸書における美意識・書体の特徴を理解する。 ◆漢碑: 木簡などの書体との技術的共通点と、楷書と比較・観察していくことで、文字変遷の過程の中での隸書について創造的に書作する。</p>	<p>a: 波磔など各古典の特徴をふまえた表現の技能を身に付け表している b: さまざまな隸書の特徴を理解し、各古典に合った技法を観察し表現を工夫している。</p>	WS 作品	WS 作品	

評価方法記載欄の「WS」はワークシートとする。

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	音楽Ⅲ 改訂版 (教育出版)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の4つの分野を年間通して学習します。
- ・音楽がどのように形づくられ、そしてそれをどう感じて表すのかについて学習を進めていきます。友だちとともに音楽を分かち合い、音楽を通して様々なことを学んで行きましょう。
- ・人間の生活や社会と音楽の関わりを意識し、文化的・歴史的背景とともに伝統や音楽文化の理解をさらに深めていきます。
- ・実技テストは授業中に発表形式で行います。お互いに聴き合うことで他人の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げて、今後の音楽表現に生かしていきましょう。
- ・音楽Ⅰ～音楽Ⅲまでの総まとめとして、個人またはグループで楽曲を選択し発表します。これまで学んだことを生かし、よりよい表現を目指してがんばりましょう。

2 学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。

3 学習評価（評価の観点の趣旨）

a: 音楽への関心・意欲・態度

音楽は様々な要素(音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など)が関連しあって形づくられていることを判別し、受け入れる。

評価方法……観察

演奏発表

b: 音楽表現の創意工夫

楽譜に書かれていることをそのまま再現するように演奏するだけでなく、表現したい音楽のイメージを膨らませながら、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する。

評価方法……観察

演奏発表

c: 音楽表現の技能

創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付けるとともに、創造的に表現に結び付けて演奏する。

評価方法……演奏発表

ワークシート

d: 鑑賞の能力

文化的・歴史的背景などの特徴から音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴く。

評価方法……観察

ワークシート

鑑賞の記録

★上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習プログラム（年間学習指導計画）

★学習が終わったところで自己評価しよう！

A...達成した B...概ね達成した C...課題を残した D...多くの課題を残した

学期	学習項目	学習内容	自己評価	主な評価の観点				単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法	
				a	b	c	d			
1 学期	歌唱 「結-ゆい-」 (2部) 「美女と野獣」 (斉唱) 「Story」(混3)	歌詞の内容にふさわしい発音の仕方		○		○		a 歌詞の内容や音楽を形づくっている要素が、どのように表現上の効果と関わるかについて興味・関心をもっている。 b より効果的な表現を目指し、発音の仕方や音楽を形づくっている要素の働きを生かす工夫をしている。 c 表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察等 演奏発表 ワークシート	
		音楽の構造を把握 (音楽を形づくっている要素の働きに着目)		○		○				
		表現上の効果を意識した歌唱				○	○			
	器楽 <リコーダー> 「旅立ちの日に」 (AR3部)	曲想の理解		○		○		a 音色や奏法の工夫による表現効果に、興味・関心をもっている。 b より効果的な表現を目指し、音色や奏法、音楽を形づくっている要素の働きを生かす工夫をしている。 c パートの役割を意識し、表現したいことを伝えるための技能を身に付けている。	観察等 演奏発表 ワークシート	
		音色や奏法の特徴、音楽を形づくっている要素の働きの活用				○	○			
		効果的なアンサンブル表現の工夫				○	○			
	器楽 <ギター> 「ありがとう」	旋律と伴奏の役割の理解		○		○		a 弾き語りの表現に興味・関心をもっている。 b 旋律と伴奏のバランス、音楽の構造を意識して、表現を工夫している。 c 役割や音楽の構造を意識し、表現したいことを伝えるための技能を身に付けている。	観察等 演奏発表 ワークシート	
		音楽の構造の把握		○		○				
		弾き歌いの表現の工夫				○	○			
1 学期	鑑賞 「動物の謝肉祭」	表現の効果 (曲想と音楽を形づくっている要素の働きの関連を理解する)		○			○	a イメージと音楽を形づくっている要素の働きの関連に興味・関心もち、積極的に感じ取っている。 d 聴き取ったことと感じ取	観察 ワークシート	

		要素の組み合わせからなる音楽の美しさの感受		○	○	○	ったことを結び付けて、楽曲の特徴や音楽の美しさを言葉で表している。	
2 学 期	歌唱 「ふるさと」(2部) 「Love,Dream & Happiness」 (混4)	歌詞の内容にふさわしい発音の仕方		○	○	○	a 発音や音楽を形づくっている要素、パートの役割や音楽の構造に興味を持ち、表現を工夫することに、興味・関心をもっている。 b 表現意図を持ち、様々な技能を応用し、表現を工夫している。 c 表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察 演奏発表 ワークシート
		各パートの役割や音楽の構造を把握		○	○	○		
		表現上の効果を意識した歌唱		○	○	○		
	器楽 <キーボード> 「オブラディオブラダ」 (4重奏)	楽器の特性やパートの音域の違い		○	○	○	a 各楽器の特性を感じ取り、パートの役割を考えて表現することに興味・関心をもっている。 b 音域やテクスチャを意識して、アンサンブルにおける表現を工夫して演奏している。 c 自分たちの表現したいことを伝えるための技能を身に付けている。	観察 演奏発表 ワークシート
		各パートの役割を考えたアンサンブル表現の工夫		○	○	○		
	器楽 <合奏> 「打楽器のための小品」 「クラッピングカルテット」	音楽の構造や、各パートの役割と関わり方の理解		○	○	○	a 音楽を形づくっている要素の働きを意識し、アンサンブルにおける表現に興味・関心をもっている。 b 音楽を形づくっている要素の働きを理解して、効果的な表現を工夫している。 c 考えた内容を演奏を通じて表現する技能を身に付けている。	観察 演奏発表 ワークシート
アンサンブル表現の工夫			○	○	○			
3 学 期	歌唱 「卒業の歌」	曲想や音楽の構造の理解		○	○	○	a 自分たちの表現を、人に伝えられるように演奏するということに興味・関心をもっている。 b 思い出を振り返り、歌詞	観察 演奏発表

		創造的な表現の工夫			○	○	と照らし合わせて心情を考え、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫している。 c 表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	
創作・歌唱・ 器楽 演奏発表会	楽曲に応じたふさわしい表現の工夫 (発表を通して音楽経験を豊かにする)				○	○	a 自分たちの表現を、人に伝えられるように演奏するということに興味・関心をもっている。 b 効果的な表現を目指し、創造的に表現を工夫している。	観察 演奏発表 ワークシート
	それぞれの演奏についての相互評価 (演奏内容の理解を深める)				○	○	c 表現したいことを伝えるための演奏技能を身に付けている。	

※年間を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重みをつけて行う観点）について○を付けている。

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	高校生の美術3（日本文教出版）						
副教材等	ワークシートプリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

絵画・彫刻、デザイン、鑑賞

- ① 心豊かな表現の構想、表現形式や材料・技法の活用により、独創的な表現を追究しよう。
- ② 意図に応じた形や色彩の効果を生かし、考えを独創的に伝えることを学ぼう。
- ③ 芸術作品の美しさや美術文化について理解を深めるとともに、自己や他者のよさを認め合い、感性と美意識を磨こう。

・授業の進め方については、絵画やデザインの表現活動において美術の歴史や表現の特質を参照しつつ、作品の相互評価をするなど作品制作と鑑賞を行う予定です。

2 学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法に関心をもち、美術文化を尊重し、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、独創的な主題を生成し、独創的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的に表している。	美術作品などの表現の工夫や国際理解に果たす美術の役割、美術文化などの理解を一層深め、自己の価値観や美意識を働かせて、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	学習状況の観察、レポート	アイデアスケッチ、ワークプリント	制作過程 制作途中作品、 完成作品	鑑賞レポート
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	【絵画】 絵画の役割	油彩画 ・モチーフのデッサン ・絵画制作 ・作品鑑賞	○		○	○	a: モチーフを見つめて感じ取ったことや考えたことに関心を持ち、主体的に主題を生成している。 b: c: 主題をより効果的な造形技法で表現している。 d: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わうことができている。	学習状況の観察 アイデアスケッチ 完成作品 レポート
	夏季休暇課題	高校展作品鑑賞	○			○	a: 他者の表現に興味を持ち、主体的に鑑賞の創造活動に取り組んでいる。 b: c: d: 美術作品などの表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わうことができている。	鑑賞レポート
2学期	【デザイン】 ポスターを考える	・ポスターの制作 ・作品鑑賞	○	○	○	○	a: 色彩に興味関心をもち、主体的にデザイン構成に取り組むことができている。 b: 形や色彩などの造形要素の機能を踏まえて、独創的な図形表現の構想を練っている。 c: 色彩効果を理解し、デザインの主題をより効果的な構成方法で表現することができている。 d: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうことができている。	学習状況の観察 アイデアスケッチ 制作途中作品 完成作品 レポート ワークプリント

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	書Ⅲ(教育図書)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

書道の創造的な諸活動を通じ、生涯にわたり書を愛好する心情と書の文化や伝統を尊重する態度を育成するとともに、書道Ⅰ・Ⅱで学習した内容を更に深め、感性を磨き、個性豊かな書表現や鑑賞活動に取り組む。

授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い、評価については各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の能力を高める。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 書への関心・意欲・態度	b: 書表現の構想と工夫	c: 創造的な書表現の技能	d: 鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする姿勢を育む。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、構想に基づいた表現の技能が身につけている。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさ、書の表現意図を、創造的に鑑賞する。
評 価 方 法	作品 ワークシート	作品 ワークシート	作品	ワークシート
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元 (学習項目)	学習内容	主な評価の観点				単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期	「漢字仮名混じり」 の学習	<p>◆グループ学習を行い、相互 批正をおこなうことで、コミュニ ケーション能力と他者の作品 を尊重する心情を育てる。</p> <p>◆漢字仮名混じり文で作品制 作を行なうための、基本的な 表現方法を硬筆で行う。</p> <p>◆詩句のイメージ・内容を理解 し、字形の変化や紙面への配 置など、ふさわしい表現を構 想・工夫し、硬筆で作品の草 稿を作成する。</p> <p>◆毛筆での制作にあたり、詩 句のイメージ・内容が伝わるよ うに用筆法を工夫する。</p>	○	○	○	○	<p>a: 表現とは何かを理解し、積極 的に取り組んでいる。</p> <p>作品の唯一性を尊び、丁寧に作 品を扱っている。</p> <p>b: 語句の意味を考え、制作時の 表現意図が作品に反映するよう 工夫している。</p> <p>c: 構想をもとに、表現する技能を 身に付け表している。</p> <p>d: 作品の相互批評を行い、自他 の作品の意図を考え、個々にし か書けない文字の尊さを感じそ の良さを味わっている。</p> <p>製作段階に応じ、各観点を提示</p>	ワークシ ート (作品) 観察
	表具	<p>◆上記、制作した作品を文化 祭に展示できるようパネルに 表具する。</p> <p>◆各自の作品が唯一物である ことを理解し、物品などに対し 大切に扱う心情を育てる。</p>	○	○			<p>a: 作品表具の際、作品の唯一性 を尊び、丁寧に作品を扱ってい る。</p> <p>b: 表具の際のマット・化粧紙の 色調など自分の作品に合うよう、 工夫している。</p>	作品 観察
	硬筆	<p>◆硬筆で実用書を学び常識的 な書式や文化を理解する。</p> <p>◆行書体での「暑中見舞い」を 制作する。</p>		○	○		<p>b: ハガキの書式を理解し、丁寧 さを持って制作し、工夫してい る。</p> <p>紙面の文字の大きさ・バランス・ 配置など適正である。</p> <p>c: 行書の特徴・技法を適切に表 現できている。</p>	ワークシ ート 作品 観察
2 学期	古典臨書学習	<p>◆書道Ⅰ・Ⅱで学習した篆書・ 隸書・楷書・行書・草書・仮名 を書道Ⅲの教科書を中心に順 次学習する。</p> <p>◆書道Ⅰ・Ⅱで修得した技能・ 知識を確認しつつ、感性をもつ て臨書での表現を工夫する。</p> <p>◆様々な書体の中から、興味 をもち得意となる古典を発見さ せる。</p>			○	○	<p>c: 各古典の特徴を理解し、構想 に応じ表現を工夫している。</p> <p>d: 各古典の特徴を考察し、美し さや趣を味わっている。</p>	ワークシ ート 作品 観察

令和5年度（専）美術科

教科	(専)美術	科目	クラフトデザイン	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	ワークシートプリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

美的造形性や機能性を主とする学習と実習を通して、クラフトデザインについての理解を深めるとともに、計画する力や表現のための技能と作図・読図の能力や表現と鑑賞の能力を高めることをねらいとしている。

- ①基礎演習 基礎的な演習を通して発想力、構想力を培い、創造的に表現できる能力を身につける。
形や色彩、素材、構造など造形の諸要素を理解する。
- ②図法、製図 発想、構想したものを視覚的に表示する作図の能力や表示されたものから具体的な形体や仕組みなどを読み取る読図の能力を高める。
- ③工芸制作 目的や条件、美しさを追求して作品を計画的に制作する能力を高める。
- ④鑑賞 作品を通して、作者の思いや表現の工夫などを感じ取り、そのよさや美しさを味わう。

2 学習の到達目標

美的造形性や機能性を主とする造形のデザインについての理解を深め、表現と鑑賞の能力を高める。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	クラフトデザインを通して創造活動の喜びを味わい主体的に発想して制作の構想を練り、制作方法を理解し、創意工夫して制作しようとしている。	感性や想像力を働かせ、身近な生活や自己の思いなどから心豊かに発想し用途と美しさの調和を考え日本の伝統的な表現のよさなどを生かして制作の構想を練っている。	制作方法を理解し意図に応じて材料や用具の活用をしている。 手順や技法などを吟味するなどし、創意工夫して制作している。	工芸作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り制作過程における工夫や素材の生かし方生活や社会を豊かにする工芸の働きに理解を深めている。
評 価 方 法	学習状況の観察、完成作品、ワークシート	制作途中作品、完成作品、ワークシート	完成作品、ワークシート	鑑賞プリント ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	オリエンテーション	・人とモノとの関わりについて考える					a: b: c: d:	
	基礎演習(図法)	・図面から工作へ	○		○		a: 図面を通して形体を理解することに興味・関心を持っている。対象の構造を理解し、図法を使い正確に表すことができる。 b: c: 実製作できる図面が描ける。図面に基づいた工作ができる。 d:	学習状況の観察 ワークシート 作品
	ペーパークラフト	2ピースのキューブを作る ・見取り図から展開図 ・展開図から造形へ	○	○	○	○	a: 2つの形体を合体し立方体とする時に欠損部分の空間を形体として想像できる。 b: 発想、想像したことを図示できる。 c: 形体や紙の材質を理解し、合理的で無駄のない工作を追及して表現している。 d: 表現や工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	学習状況の観察 ワークシート 作品
	夏季休暇課題	高校展の作品鑑賞	○			○	a: 他者の表現に興味を持ち、主体的に鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 b: c: d: 高校生の表現や工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	鑑賞レポート

令和5年度（専）美術科

教科	(専)美術	科目	素描	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	ワークシートプリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

造形表現の基礎となるものの見方を学び観察力をつけましょう。
 デッサンでは対象の客観的な観察を通して形体の構造を理解し、正確に描画する態度を身につけます。
 また、形体の固有色や材質感などの表し方を工夫し表現する能力を高めましょう。
 クロッキーでは形態のよさや美しさを端的に把握し、短時間で描画する「人物クロッキー」を行います。
 デッサンでは主に鉛筆を使用しますが、人物クロッキーでは鉛筆以外の画材も使用する予定です。
 制作した作品の鑑賞（合評）を行います。

2 学習の到達目標

対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	素描を通して、美術文化を尊重し、主体的、創造的に美術の学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、創造的で個性豊かな、表現の構想を練っている。	創造的な表現活動をするために必要な造形感覚や専門的な技能を身に付け、表現方法を創意工夫して表現している。	美術作品文化遺産、美術文化などについて理解を深め、感性や想像力を働かせて価値や美意識を感じ取り、創造的に味わっている。
評 価 方 法	学習状況の観察 完成作品	制作途中作品 完成作品 ワークシート	完成作品 ワークシート	発表の内容 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	デッサン・クロッキー	・グレースケール	○		○		a: 鉛筆の基礎技法に興味・関心を持ち、正確にハッチングができる。 c: 鉛筆の使い方を理解し、諧調を表現できている。	学習状況の観察 完成作品
		・人物クロッキー ・鑑賞	○	○	○	○	a: 対象の形体の構造を端的に把握できる。 b: 対象の美しさを感じ取り、人物の構造や動きを理解し表現できている。 c: 鉛筆の濃淡や、筆圧を生かし描画しようとしている。 d: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わっている。	学習状況の観察 完成作品 ワークシート
		・卓上モチーフ1 ・卓上モチーフ2 ・卓上モチーフ3 ・卓上モチーフ4 ・卓上モチーフ5 ・卓上モチーフ6 ・鑑賞	○	○	○	○	a: 客観的に対象の形体構造を観察把握できる。 b: 形や色、材質感などの表し方を工夫し表現することに関心をもてる。 c: 形体や色彩、材質感などの表し方で鉛筆の濃淡によるタッチで、よりよい表現を工夫追及している。 d: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わえる。	学習状況の観察 完成作品 ワークシート
	夏季休暇課題	高校展の作品鑑賞	○			○	a: 他者の表現に興味を持ち、主体的に鑑賞の創造活動に取り組める。 b: c: d: 高校生の表現や工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わえる。	鑑賞レポート

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	硬筆書道	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

個々の書き癖を理解させ、美しく文字を書くために必要な目標を個々に立てさせることで、丁寧に読みやすい文字を書く心情を育てる。
文字の字形だけでなく文字の大きさや配置で印象が変わることを理解させる。授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

文字を美しく書きたいという欲求と心情を育てる。文字により文化が伝達・継承されてきたことを理解し、読みやすく美しい文字を書くことの必要性を学ぶ。縦書き、横書きなど様々な書式を使用する上で、文字の大きさや配置などバランスよく書くとは何かを考える。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	書が身近なものであることを実感し、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞ができる態度を育む。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、書の創造的活動の喜びを味わい、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、表現方法を選択し活用できるように、様々な表現技能を習得する。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、その価値を考え、書のよさや美しさ、書の表現意図について創造的に鑑賞する。
評 価 方 法	作品 ワークシート	作品 ワークシート	作品	ワークシート
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元 (学習項目)	学習内容	主な評価の観点				単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期	印象の良い文字 の書き方	<ul style="list-style-type: none"> ◆丁寧で読みやすい文字を書く心情を育てる。 ◆紙面・マス目に対しての文字の大きさの学習 ◆ボールペンの用筆法 	○		○		<p>a: 丁寧で読みやすい文字を書こうと意欲的・向上心を持って取り組んでいる。</p> <p>c: 筆記具に応じた持ち方や使用法を身に付け表している。</p>	ワークシート 作品 観察
	漢字(楷書) の 学習	<p>「部首別による学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆部首名の学習 ・部首ごとに結構法を学習する。 ◆旧字体・異体字の知識 ◆紙面・マス目に対しての文字の大きさの学習 <p>「横書き文章の学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆横書き文章のまとめ方の学習 ・自分の名前や住所などを中心に履歴書の制作を行なう。 		○		○	<p>b: 文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫している。</p> <p>d: 他者の作品と自分の作品とを比較し、共通の長所・短所を模索することで、配置や結構法などバランスとは何かを考えその良さを味わっている。</p>	ワークシート 作品 観察
2 学期	縦書き文章の 練習	<ul style="list-style-type: none"> ◆はがき・封筒の表書き書式 ◆縦書き文章のまとめ方の学習 ・手紙文を題材に縦書き文章のまとめ方を学習する。 ・時候の挨拶など日本文化としての手紙の書式を学習する。 	○	○			<p>a: 丁寧で読みやすい文字を書こうと意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>b: 文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫している。</p>	ワークシート 作品 観察
	行書による学 習①	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の名前の楷書・行書の違いを意識し書く。 ◆前単元を行書を扱い学習する。 	○			○	<p>a: 新しい書体について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。</p> <p>d: 楷書・行書の違い観察し、表現に結びつけその良さを味わっている。</p>	ワークシート 作品 観察
	行書による学 習②	<ul style="list-style-type: none"> ◆前項の内容をふまえ筆ペンを使用し年賀状や祝儀袋などの書き方を学習する。 		○	○		<p>b: 行書の特徴をふまえ、文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫している。</p>	ワークシート 作品 観察

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道演習	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

書作を通して、書に関心を持ち愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、探究心を育成し表現と鑑賞の能力を伸ばす。
 また、相互批評などのグループ学習をすることでコミュニケーション能力の向上をめざし、書道芸術作品と自他を尊重する心を育む。
 授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育成するとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞能力を伸ばす。書を生活の中で身近なものであると認識し、文化的教養を身に付けるとともに表現することを通じ自他を尊重する心を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、構想に基づいた表現の技能が身についている。	書作品の構想・工夫などの表現意図を、創造的に鑑賞することができる。
評 価 方 法	作品 ワークシート	作品 ワークシート	作品	ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元 (学習項目)	学習内容	主な評価の観点				単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	「いろはうた」による 作品製作①	◆「いろはうた」を題材に作品製作をする。 ◆様々な表現技法を習得する。	○		○		a: 制作意図を理解し積極的に取り組んでいる。 c: 1本の筆で様々な線を書き分ける技能を身に付け表している。	作品 観察
	「いろはうた」による 作品製作②	◆全員同じ言葉を使用し、作品制作をすることで、自分にしか書けない作品をテーマにし、文字における個性と表現の工夫を個々に見つけ出す。		○		○	b: 用筆法を工夫し、字間行間を工夫している。 d: 自分の作品の工夫、他者の作品の工夫を相互批評し合う事で、個々の作品の良さを味わっている。	ワーク シート 作品 批評レ ポート 観察
	「いろはうた」作品の パネルまたは軸装 篆刻	◆制作した作品を展示できる形にすることで書作品への関心を深めるとともに次回作への向上心と反省の念を促す。 ◆「いろはうた」作品に押す印の制作	○	○			a: 表具(装丁)作業において自分の作品を大切に扱っている。 物品・器物への取扱に注意し、安全に作業を行っている。 b: 作品に合う印になるよう工夫している。	作品 感想レ ポート 観察
2学期	小作品制作	◆墨・紙と字形の変化を工夫し、語句、単語を豆色紙に書作する。 ◆作品の趣が、語句の意と合致するよう表現の工夫を促す。	○	○			a: 制作時の意図を理解し積極的に取り組んでいる。 b: 語句の意味を感性をもって理解し、意図をもって表現できているか。	ワーク シート 作品 観察
	実用細字	◆小筆を使用し学習する。 ◆祝袋など冠婚葬祭を中心とした書式を学ぶとともに、字くばりなどのバランス感覚を学ぶ。		○		○	b: 用筆法だけでなく、紙面に対する文字の大きさや余白を考え工夫している。 d: 作品の相互批評を行い、バランス良く書くとは何かを理解しその良さを味わっている。	ワーク シート 作品 観察
	さまざまな 書式	◆命名・結納など筆書きの書式を学習する。	○	○			a: 書式に応じて美しい文字を書くために、積極的に取り組んでいる。 b: 用筆法だけでなく、紙面に対する文字の大きさや余白を考え工夫している。	ワーク シート 作品 観察

